

2022年2月22日

各 位

旅行に関する消費者アンケート結果

～コロナ収束後に期待される旅行マインドの高まり～

株式会社いよぎん地域経済研究センター（略称IRC、社長 重松 栄治）では、このたび標記の調査結果を取りまとめましたので、その概要をお知らせします。

なお、詳細は2022年3月1日発行の「IRC Monthly」2022年3月号に掲載予定です。

記

【調査概要】

- ・ 新型コロナで大幅に悪化した旅行マインドがコロナ収束（感染縮小）とともに、どのように変化するかを把握するために消費者アンケートを実施した。
- ・ 外出型消費全般の実施状況をみると、「コロナ下」ではすべての実施率が「コロナ流行前」と比べて低下した。一方、「コロナ縮小期」では回復が見込まれるもの・回復が厳しいものに分かれる結果となった。
- ・ 「コロナ流行前」と「コロナ縮小期」の実施（意向）率をみると、旅行関連は「日帰り旅行」を除いてコロナ前を上回る水準となった。コロナ収束後は再び旅行マインドの高まりが期待できそうだ。
- ・ 期間ごとの旅行回数では、「0回」と答えた人が、コロナ下の2020年と2021年ではそれぞれ66.0%、68.4%とコロナ前（34.2%）の約2倍となった。
- ・ 海外旅行意向については、6割超の人は消極的な姿勢で、「行きたいが、コロナが収束してもしばらくは控えたい」（28.2%）、「海外旅行には行かない」（34.6%）と答えた。
- ・ 今後の「G o T o トラベル」の利用意向は、「利用したい」（「前回利用経験あり、今回も利用したい」、「前回利用経験なし、今回は利用したい」）の合計が46.4%となった。
- ・ 年代別に「G o T o トラベル」を利用して行きたい場所をみると、特に20・30歳代の近距離志向がみられた。コロナ縮小期においても、若年層を中心に近場を旅する「マイクロツーリズム」が支持されそうだ。

以 上

【本件に関するお問い合わせ】 株式会社いよぎん地域経済研究センター（担当：續木） TEL (089) 931-9705

はじめに

新型コロナ発生後、外出自粛の影響で旅行や外食など外出型の消費行動は制限を余儀なくされた。

今回は、新型コロナで大幅に悪化した旅行マインドがコロナ収束（感染縮小）とともに、どのように変化するのかを把握するためにアンケートを行った。なお、アンケート実施時点（2021年12月中旬）では、全国的に感染状況が落ち着いており、県内でも感染者数ゼロが続いていた。調査概要は以下のとおり。

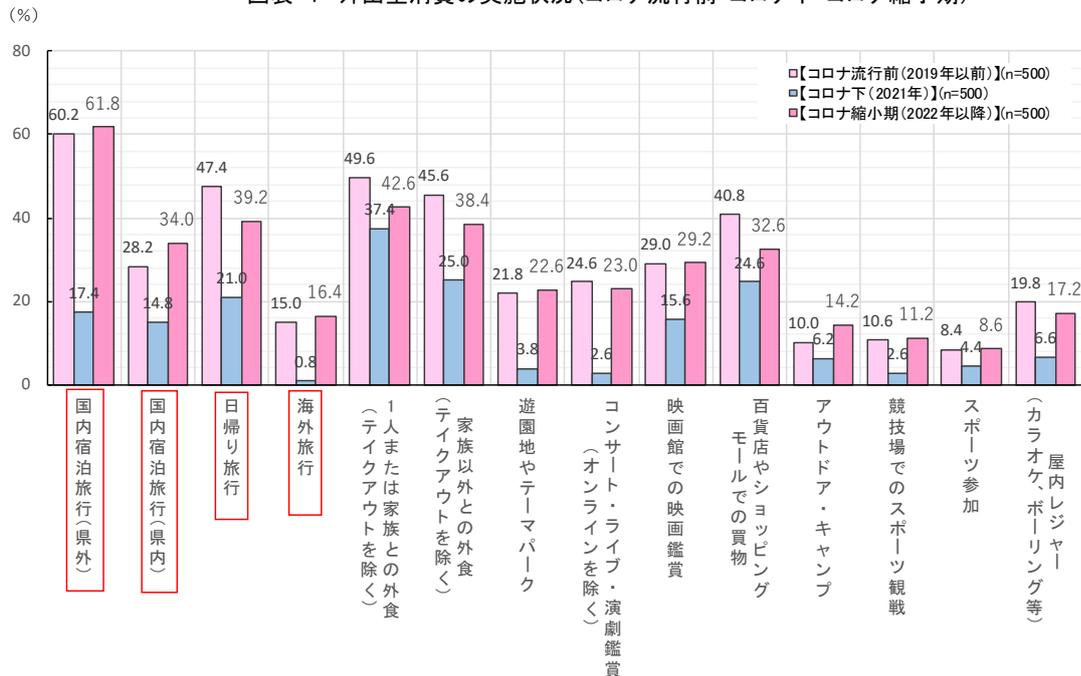
調査概要	
調査時期	2021年12月中旬
調査対象	愛媛県内在住者
調査方法	調査会社を通じたインターネット調査 (2022年2月号の消費者アンケートと同時に実施)
有効回答数	500人
回答者属性	
性別	男性:47.2% 女性:52.8%
年代別	20歳代:16.2% 30歳代:15.8% 40歳代:18.0% 50歳代:20.2% 60歳代:17.4% 70歳代:12.4%

※四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。以下、同様。

1. コロナ収束後に高まる旅行マインド

外出型消費全般の実施状況をみると、「コロナ下」ではすべての実施率が「コロナ流行前」と比べて低下した。一方、「コロナ縮小期」では回復が見込まれるもの・回復が厳しいものに分かれる結果となった（図表-1）。

図表-1 外出型消費の実施状況(コロナ流行前・コロナ下・コロナ縮小期)



注: コロナ縮小期の実施意向は、ワクチン接種が進み、コロナが収束に向かっている状況下として回答を求めた

「コロナ流行前」と「コロナ縮小期」の実施（意向）率をみると、旅行関連は「日帰り旅行」（▲17.3%）を除いてコロナ前を上回る水準となった（図表-2）。コロナ収束後は再び旅行マインドの高まりが期待できそうだ。

一方、買物や外食はコロナ前の水準を10%以上下回った。コロナ下で定着した巣ごもり型の消費行動（ネット通販、内食・中食シフトなど）の影響を受けたと考えられる。

図表-2 コロナ収束で回復が見込まれる外出型消費と回復が厳しい外出型消費（図表1「コロナ流行前」と「コロナ縮小期」の比較分析※）

回復が見込まれる外出型消費（コロナ流行前の水準を上回る項目）	
項目	伸び率
アウトドア・キャンプ	+42.0%
国内宿泊旅行(県内)	+20.6%
海外旅行	+9.3%
競技場でのスポーツ観戦	+5.7%
遊園地やテーマパーク	+3.7%
国内宿泊旅行(県外)	+2.7%
スポーツ参加	+2.4%
映画館での映画鑑賞	+0.7%
回復が厳しい外出型消費（コロナ流行前の水準を下回る項目）	
項目	減少率
百貨店やショッピングモールでの買物	▲20.1%
日帰り旅行	▲17.3%
家族以外との外食(テイクアウトを除く)	▲15.8%
1人または家族との外食(テイクアウトを除く)	▲14.1%
屋内レジャー(カラオケ、ボーリング等)	▲13.1%
コンサート・ライブ・演劇鑑賞(オンラインを除く)	▲6.5%

※(「コロナ縮小期」の実施意向の回答割合/「コロナ流行前」の実施状況の回答割合)-1

コロナ下では、すべての年代で旅行の実施率がコロナ前と比べて低下した（図表-3）。コロナ収束後の回復見込みは、40歳代を除くすべての年代で「国内宿泊旅行（県内）」がコロナ前の水準を上回った（図表-4）。特に若年層が意欲的で20歳代は+36.0%、30歳代は+47.6%となった。

図表-3 旅行のコロナ下の落ち込み具合(年代別)

	国内宿泊旅行 (県外)	国内宿泊旅行 (県内)	日帰り旅行	海外旅行
20歳代 (n=81)	▲61.2%	▲8.0%	▲50.0%	▲81.8%
30歳代 (n=79)	▲72.3%	▲33.3%	▲64.1%	▲100.0%
40歳代 (n=90)	▲62.0%	▲62.1%	▲44.1%	▲100.0%
50歳代 (n=101)	▲76.7%	▲54.2%	▲48.8%	▲92.3%
60歳代 (n=83)	▲75.5%	▲54.2%	▲61.4%	▲95.2%
70歳代 (n=66)	▲78.3%	▲77.8%	▲64.9%	▲100.0%

※「コロナ下」の実施意向の回答割合/「コロナ流行前」の実施状況の回答割合-1
※塗りつぶし箇所は50%以上落ち込みがあった項目

図表-4 旅行のコロナ収束後の回復見込み(年代別)

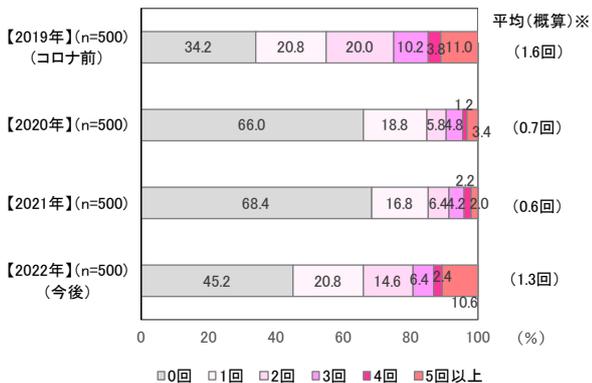
	国内宿泊旅行 (県外)	国内宿泊旅行 (県内)	日帰り旅行	海外旅行
20歳代 (n=81)	▲10.2%	+36.0%	▲10.0%	+18.2%
30歳代 (n=79)	+4.3%	+47.6%	▲23.1%	+40.0%
40歳代 (n=90)	+12.0%	▲3.4%	▲17.6%	▲11.1%
50歳代 (n=101)	+16.7%	+20.8%	▲27.9%	+46.2%
60歳代 (n=83)	▲2.0%	+20.8%	▲20.5%	▲14.3%
70歳代 (n=66)	▲8.7%	+5.6%	▲2.7%	▲9.1%

※「コロナ縮小期」の実施意向の回答割合/「コロナ流行前」の実施状況の回答割合-1
※塗りつぶし箇所はプラスの項目

2. 国内宿泊旅行回数の変化

期間ごとの旅行回数では、「0回」と答えた人が、コロナ下の2020年と2021年ではそれぞれ66.0%、68.4%とコロナ前（34.2%）の約2倍となった。2022年の平均旅行回数は1.3回とコロナ前には及ばないものの、コロナ下と比べて増加した（図表-5）。

図表-5 各期間における旅行回数



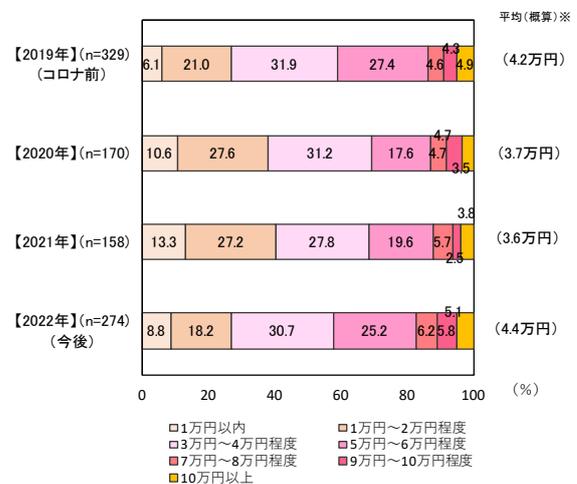
※平均回数(概算)は旅行回数×回答割合。「5回以上」は5回で計算した

3. 国内宿泊旅行予算の変化

1人あたり1回の旅行予算を尋ねたところ、すべての期間で「3万円～4万円」と答えた人が最も多かった（図表-6）。

平均予算（概算）は、コロナ前の2019年は4.2万円だったが、コロナ下では、3.7万円（2020年）、3.6万円（2021年）に低下した。2022年の想定予算は、「7万円以上」が増加したことからコロナ前をわずかに上回り4.4万円となった。

図表-6 各期間における1人あたり1回の旅行予算

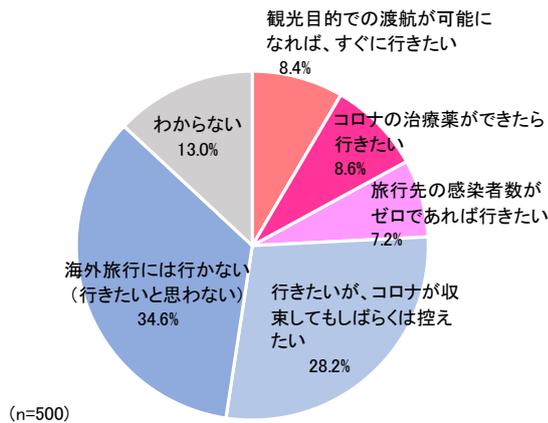


※:平均予算(概算)は、1人あたり1回の予算×回答割合。「1万円以内」は1、「1万円～2万円程度」は1.5、「3万円～4万円程度」は3.5、「5万円～6万円程度」は5.5、「7万円～8万円程度」は7.5、「9万円～10万円程度」は9.5、「10万円以上」は10で計算した

4. 海外旅行意欲

海外旅行について尋ねたところ、6割超の人は消極的な姿勢で、「行きたいが、コロナが収束してもしばらくは控えたい」（28.2%）、「海外旅行には行かない（行きたいと思わない）（34.6%）」と答えた（図表-7）。コロナが収束しても当面は国内旅行重視の動きが続くことが予想される。

図表-7 海外旅行意欲

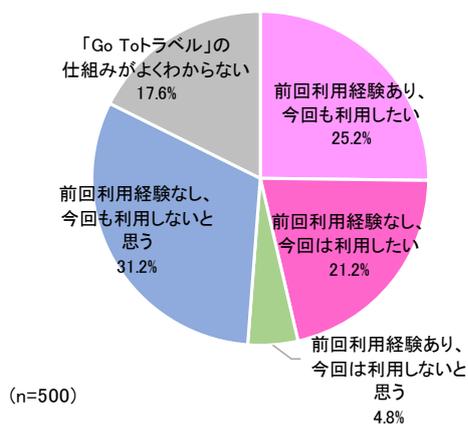


5. 「Go Toトラベル」の利用意向

今後の「Go Toトラベル」の利用意向を尋ねたところ、「利用したい」（「前回利用経験あり、今回も利用したい」、「前回利用経験なし、今回は利用したい」）の合計が46.4%となった（図表-8）。

なお、2022年の旅行予定回数が「1回以上」の回答割合は54.8%であり、これらの大半が「Go Toトラベル」を利用したいと答えた。

図表-8 次回の「Go Toトラベル」利用意向



年代別に「Go Toトラベル」を利用して行きたい場所をみると、特に20・30歳代の近距離志向がみられた（図表-9）。20歳代は1位が「愛媛」（54.8%）、4位が「四国」（31.0%）で、30歳代は、1位が「四国」（51.3%）、2位が「愛媛」（43.6%）だった。これらの層は、コロナ下においても県内

旅行の落ち込みが限定的であり、コロナ収束後も近距離志向が継続していると考えられる（図表-3、4参照）。

図表-9 「Go Toトラベル」を利用して行きたい場所（年代別・複数回答）

	20歳代 (n=42)	30歳代 (n=39)	40歳代 (n=41)	50歳代 (n=48)	60歳代 (n=38)	70歳代 (n=24)
1	愛媛 (54.8%)	四国 (51.3%)	四国 (43.9%)	九州・沖縄 (56.3%)	九州・沖縄 (42.1%)	四国 (33.3%)
2	九州・沖縄 (52.4%)	愛媛 (43.6%)	九州・沖縄 (41.5%)	四国 (41.7%)	四国 (31.6%)	九州・沖縄 (33.3%)
3	関東 (33.3%)	九州・沖縄 (43.6%)	愛媛 (39.0%)	関東 (41.7%)	関東 (31.6%)	北海道 (33.3%)
4	四国 (31.0%)	近畿 (41.0%)	中国 (36.6%)	中国 (33.3%)	北海道 (31.6%)	愛媛 (20.8%)
5	近畿 (28.6%)	中国 (33.3%)	近畿 (31.7%)	愛媛 (31.3%)	愛媛 (28.9%)	関東 (20.8%)
6	中国 (26.2%)	関東 (28.2%)	関東 (24.4%)	近畿 (29.2%)	近畿 (26.3%)	東北 (16.7%)
7	北海道 (23.8%)	北海道 (23.1%)	北海道 (12.2%)	中部 (20.8%)	中国 (23.7%)	中国 (12.5%)
8	東北 (11.9%)	中部 (12.8%)	中部 (7.3%)	東北 (20.8%)	中部 (7.9%)	近畿 (12.5%)
9	中部 (4.8%)	東北 (12.8%)	東北 (7.3%)	北海道 (12.5%)	東北 (7.9%)	中部 (12.5%)

6. おわりに

旅行関連の実施意向は、日帰り旅行を除きコロナ収束後に回復が見込まれる結果となった。また、2022年の旅行予定回数、想定予算はコロナ下と比べていずれも増加した。

旅行のスタイルは、若年層を中心に近場を旅する「マイクロツーリズム」がコロナ縮小期においても支持されそうだ。

足元ではオミクロン株の感染が拡大しているが、ワクチンの普及や治療薬の開発により収束へ向けた明るい兆しもみられる。コロナ流行前のように自由に旅行が楽しめる日が来ることを期待したい。

（續木 美和子）